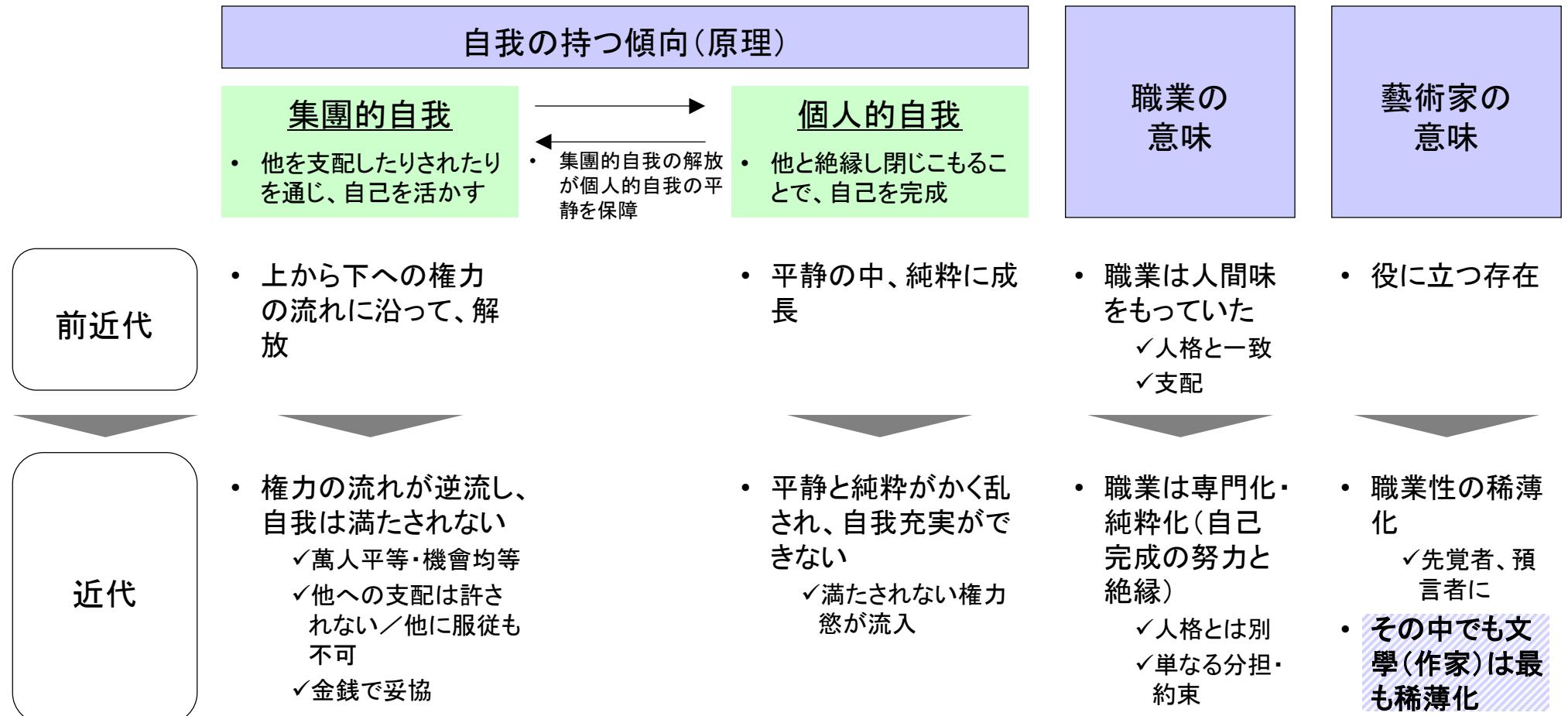


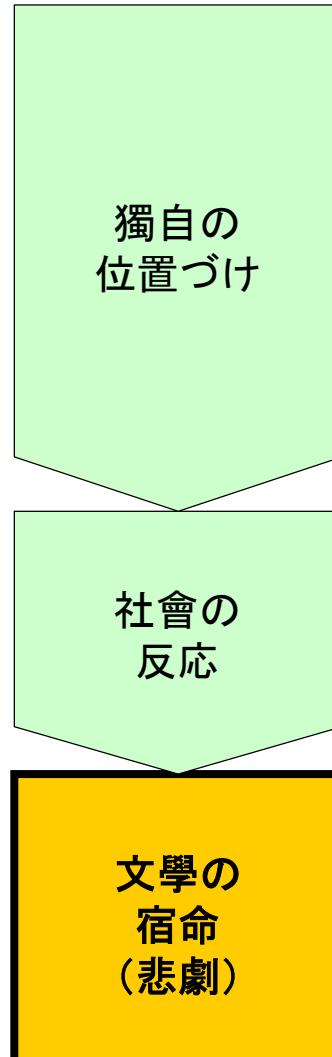
「作家であるがゆえの宿命、条件とは?」「藝術の本質とは?」 職業としての“作家”的地位が変遷した、その経緯と理由への考察を通して、これらの問いに、答えていく

職業・藝術家の、位置づけの變化



文學は藝術の中でも、最も社會と対立し、その矛盾を宿命として苦しんでいる

文學(作家)獨自の位置づけ



- 文學は藝術のうち最も精神的
 - ✓ 物品として役に立たない・明白に無用
 - ✓ 専門技術は自己完成と不可分
- 純粹に精神的で、社會に役立たないがゆえに、最も集團的自我も満たされない
- そのため強烈に精神の自由(個人的自我の充実)を求める
- その結果、自己を支配しようとする全てのものに敵意を持ち(集團的自我の否定)、職業性が稀薄化
 - ✓ 職業就業を強いる社會に対し、対立・絶縁
 - ✓ 自己の無償性・無用性を主張

- 社會は作家に報酬を払う
 - ✓ 作家の技術(職人気質)／解放の指導者(受容)
- しかしディレタントなどは特權と錯誤
 - ✓ 技術、職業性を軽蔑

- 自己完成【個人】の場に、自己拡大【集團】をもぐらまねばならなくなる
(自己完成/犠牲も、権力慾・自我拡大慾の一手段に)
 - ✓ 自我拡大慾は、自己完成に随伴という習慣
 - ✓ 自己完成は、作家のみの專賣に
- 権力慾を金銭で妥協もせず、新たな職業概念を名分のまま受取り、時代の宿命をうけ苦しんでいる

作家にとって副業は大半が不可避だが、(それ以外の場合も含め)作家の資質を脅かす危険に多く囲まれている。作家はこの危険を知りつつ、宿命に耐えていかねばならない

作家と副業

副業の意味合い

- 副業=職業であり、社會に役立つもの
 - ✓職人気質が必要
 - ✓その養成には年期が必要
- 年期は、自己完成と分離不可
⇒終わらない自己完成のまま、作品を売るうしろめたさに耐える必要

副業の苦痛

- 財がない(副業しない)のは、社會の矛盾を感じるには好条件
- しかし貧困への猪突は、解決への意思の欠如
⇒解決するなら、副業をやることは不可避

副業の必要性

作家の条件

- 完全にひとを支配し心服させ魅了するまでの、飽くことのない権力慾と野心
(⇒1匹)
 - ✓作家以外にこの拡大慾を満たす職業はない
 - ✓他の職業の場合、自己完成を放棄しなくてはならない
- 副業で社會に接触すると、支配慾が発生し、危険が生じる

作家の条件

副業の危険性

副業従事	<ul style="list-style-type: none"> 作家的資質の侵蝕 生理的不満排泄のみに 	<ul style="list-style-type: none"> 社會に役立つことで(前近代化)、文學を失う
文學専業	(不可)	<ul style="list-style-type: none"> 名声による権力慾満足

未成功作家

成功作家